地域ケア会議の事例検討における薬剤師の助言ポイント

鳥栖三養基薬剤師会

〇西依恭平　菊竹広隆　廣吉一宇　井上賀智　安永麗子　宮地和子　坂上光広　平岡敏郎　三橋博子　松雪幹一

【目的】

地域課題や個別課題の抽出や整備を行うために症例検討を中心にした地域ケア会議が佐賀県全域で行われ始めている。地域ケア会議は地域包括ケアシステム構築のための手段の一つであり、薬剤師が参加者及び助言者として出席する機会が増えている。

鳥栖三養基地区においては、要支援及び要介護１の軽度な利用者を自立に導くための症例検討会(自立支援ケア会議)が平成25年より始まり、初期から薬剤師が助言者として参加している。

自立支援ケア会議における薬剤師助言者の役割は、介護予防を軸として、自立支援に向けた薬剤の管理・援助方法の確認と助言、薬剤が利用者のADL(日常生活動作)やIADL(手段的日常生活動作)、QOLに与える影響の検討と助言、医療職として利用者が抱える疾患に対する注意や指導、医療連携をより高める為の助言など広範囲にわたるため、薬剤師によって助言内容が異なる事が問題と考えられる。

そこで、自立支援ケア会議において、ケアマネジャー及び訪問系・通所系のサービス事業者が作成したアセスメント表やケアプラン(サービス・支援計画表)を基に、薬剤師が薬剤の影響をどの様に考察し、どの様な助言を行う事が望ましいのか検討を行った。

【方法】

ケアマネジャー及び訪問系・通所系のサービス事業者が作成したアセスメント表やケアプランのアセスメント項目を確認し、項目毎に薬剤が利用者のADL、IADL、QOL及び精神状態などに影響を与える可能性を挙げ、検討を行った。

【結果・考察】

自立支援ケア会議において、アセスメント表やケアプランの各項目に焦点を当て、薬剤が利用者のADLやIADL、QOLに与える影響について確認、検討を行い、助言をすることで薬剤師の自立支援に向けた助言の質の向上につなげることができた。また、薬剤の影響を検討する際の指標ができる事で薬剤師による助言内容のばらつきを抑え、助言内容の底上げも可能になると考えられる。薬剤管理援助、疾患情報・注意、医療連携地域社会資源の把握等、今回の内容以外にも今後、薬剤師が自立支援ケア会議に参加していくうえでレベルアップを図るべき内容も明らかになった。

キーワード

自立支援ケア会議　地域ケア会議　地域包括ケア　ケアマネージャー　アセスメント表　ケアプラン